

パブリックコメントの結果概要

1 パブリックコメントの状況

意見募集期間：令和7年12月18日から令和8年1月8日まで（22日間）

意見提出件数：10人・27件

2 主な意見とその対応

意見の要旨	対応案（修正案）	
①日本又は世界のロールモデルのような視点をもっといれてはどうか	第IV章 1 (p 6)	府北部地域が、海を活用した技術革新と産業創造で国内外を牽引するロールモデルの拠点となる旨、追記
②プランとしての達成状況を実感できる具体的な目標設定を望む	第IV章 2 (p 7)	目ざす姿の数値目標を精査
③沿岸漁業の振興のために栽培施設の機能向上を望む。	第V章 1① (p 9)	重要資源の安定的な種苗生産に必要な施設整備を進めるとともに、漁業関係者から資源増大の要望が高く、放流効果が見込まれる新規魚種を探索する旨、追記
④水産・海域データだけではなく、他の複数データと融合した高付加価値データ創出を検討すべき	第V章 2① (p19)	海洋データを主体に、観光や文化、陸域環境データ等を融合した付加価値の高いビッグデータやデジタル技術を活用する旨、追記
⑤近年頻発する二枚貝の貝毒について、対策を講じていただきたい	第V章 2① (p13)	貝毒による二枚貝出荷規制の頻発により、二枚貝の貝毒対策手法の確立が必要である旨、追記
⑥水産業・海業人材の育成のため、海洋高校で基礎力を、海の民学舎で経営力を身につける二段階の育成を望む	第V章 2③ (p16)	府立海洋高校と海の民学舎の合同実習・講義の拡充や生徒と学舎生との交流など、海の民学舎の施策に反映
⑦漁港を交流の場へと導くことは有効な手段と考えるが、そのためには、漁業者・漁村住民の意識改革と漁港の役割の再認識が必要	第V章 3① (p17)	漁港利用に関する漁業従事者の意識・認識の転換が必要との認識に立った取組を推進
⑧副業や女性の活躍を可能にする柔軟な仕組みを整え、従来の枠にとらわれない“稼げる漁村モデル”の提示を期待	第V章 3② (p18)	低利用魚の加工品開発など女性目線による他県の優良事例を参考に水産業の活性化を図る旨、追記
⑨地域の伝統的な食文化を「健康長寿」の切り口で発信し、魚食普及や高付加価値化、観光誘客につなげて欲しい	第V章 3② (p18)	健康長寿のまちとして知られる府北部地域ならではの魚食文化を後世に伝える旨、追記
⑩京都府の各産業リーディングゾーンとの有機的連携もできるだけ多く検討し、府施策全体としての相乗効果を高めるべき	第V章 3③ (p19)	サステナブル産業創出研究会とも連携し、サステナブルパークへの企業誘致につなげるとともに、各地の産業創造リーディングゾーン入居企業との有機的な協力体制を構築する旨、追記